



特集2 牧水の足跡たどる

## 旅情を歌に

# 利根沼田の風景詠む

旅とともにお酒や自然をこよなく愛した歌人、若山牧水は、全国を旅し、詩情豊かな多くの歌を残しました。名随筆「みなかみ紀行」の旅から100年。片品溪谷や老神温泉で詠んだ歌とともに、牧水の旅路をたどります。

若山牧水 - わかやまぼくすい -

本名・若山繁。宮崎県に生まれ、早稲田大学文学部英文科に進んだ。1910（明治43）年発刊の第3歌集「別離」で歌人としての地位を築く。短歌の他に随筆、童話、紀行文などを数多く手掛け、9,000首（未発表含む）もの歌を残している。1918（大正7）年と1922（大正11）年の2回、利根沼田を訪れた。

利根沼田の施設や学校を巡回する牧水パネル。利根中学校ではパネルを囲み、傘を背負うポーズで記念撮影

